

令和 6 年 5 月 27 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19H00519

研究課題名（和文）美術市場とその国際化に関する制度論的、交流史的研究。西洋から日本・アジアへの展開

研究課題名（英文）Studies in Global Art Market including Japan and Asia

研究代表者

園府寺 司 (kodera, tsukasa)

大阪大学・大学院人文学研究科（人文学専攻、芸術学専攻、日本学専攻）・名誉教授

研究者番号：50205340

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 33,000,000円

研究成果の概要（和文）：特に日本において未開拓分野である美術市場、画商の研究において、前回の第一期で西洋の美術市場研究の方法や情報を収集してきた成果を踏まえて、日本の研究者による美術市場研究を西洋美術ならびに日本、東洋にも一定程度拡大し、西洋のみならずグローバルな美術市場に関する独自の研究を国際的な出版、学術誌、学会においての発信できるようになった。現在、グローバルあるいはマルチプルな美術市場の研究は世界的に見ても研究途上にある先端研究であるが、その一端に日本の研究者が加わるようになったことの意義は大きい。

研究成果の学術的意義や社会的意義

美術作品が市場においてどのように取引されるか、そのメカニズムについて多くの研究成果を得ることができた。作品の売買、貸借がどのような要因によって促進され、どのようにその価格が決まるかについての知見は、美術作品の世界的伝播、価値、価格形成について、また画商、キュレーターなど美術を動かす人々の役割についての理解を深めてくれた。これらの知見は研究上も重要であるが、美術館の運営や文化政策の立案にとっても有益な客観的指標やデータを提供できる点などにおいても重要であり、今後の文化活動全般の推進にとっても大きな意義をもつものである。

研究成果の概要（英文）：In the art market & art dealer studies, which is unexplored especially in Japan, we started our studies in the first phase by following the advanced Western study methods and results. Based on the results of the first phase, we have undertaken our original studies, expanding the study field from Europe to the world, including Japan and Asia, and attained the level to publish our study results in scholarly journals, books, and conference papers. Today, studies in global and multiple art markets are rapidly progressing in international scholarship, and it is very significant that Japanese scholars are now getting involved in collaborative research.

研究分野：美術史

キーワード：美術市場 画商 コレクション

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究に先立ち、科学研究費基盤研究(A)「西洋近世・近代美術における市場・流通・画商の地政経済史的研究」を開始した時点では日本における美術市場研究はまったく不毛の領域であり、まずは西洋美術研究における美術市場研究の方法と成果を吸収し、国内で紹介し、独自の研究を本格的に開始することに努めた。その成果を受け、本研究においては西洋美術史における美術市場・画商研究の独自研究を推進すると同時に、まだ研究の遅れている日本、アジアにおける美術市場も含めた国際美術市場の研究にも着手した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、特に日本における美術史研究で国際的に大きく遅れをとっている美術市場研究を進展させるとともに、日本人研究者による研究を通じて国際美術市場研究に寄与することである。欧米圏の美術市場についてはすでに半世紀近くにわたって膨大な研究が産み出され、多大な成果が生まれてきた。しかし、それらは基本的に欧米圏に関する研究であり、その他の地域に関する研究や情報は極端に少なく、グローバルあるいはマルチプルな美術市場については近年取組が始まったばかりである。本研究の目的は日本国内の美術市場研究を促進すると同時に、これらの国際美術市場研究に貢献できる研究を行なっていくことにある。

研究と同時に、日本の美術市場の閉鎖的状況を打開していくことも目的のひとつである。日本の画商、美術市場の世界は一種のブラック・ボックスである。わかりやすい例をあげれば、欧米圏の美術作品の来歴については詳細に情報が残されることが多く、主要美術館のウェブサイトの所蔵作品カタログには詳細な来歴情報が公開されるようになってきた。しかし、日本ではまだこのような情報公開はほとんど行われておらず、その主因のひとつは、作品が日本国内に入った途端にその作品の来歴が追えなくなること、つまり来歴情報の秘匿の慣習が根付いていることである。美術市場研究の継続により、市場や画商への関心と評価を高めることで、そのようなブラックボックス状況を改善し、透明性の高い作品情報によって文化政策の推進などにも寄与できるものと考えられる。

3. 研究の方法

研究分担者の専門領域によって方法は当然一定程度異なるが、基本的には個別の画商、コレクター、美術館などについて作品売買の情報を収集し、美術市場の中でも売買記録の残りやすいオークションの競売記録をもとに、作品の売買記録、価格の推移に関する情報を収集し、データに基づいた分析から成果を導き出すという方法になる。情報源はウェブ上で公開されている過去の画商の帳簿データベース、コレクションや美術館の歴史に関する出版物ほか、オークション記録など使える情報はすべて駆使して売買、価格情報を収集し、ウェブや出版物に公開されていないものについてはアーカイブ自体の個別調査を実施した。作品の売買情報が残りにくい研究領域のものについては、コレクション、作品の流通、複製による伝播などを中心に研究を進めた。

日本、アジアについてはまだ包括的な売買、貸借、価格情報は得られていないが、東京文化財研究所のデータベースのほか、断片的な刊行物から情報を可能な限り収集し、コレクション形成についての研究を通じて作品の流通、貸借に関する情報を一定程度集めるとともに、国際美術市場研究に必要な情報の提供もある程度は可能になってきた。

4. 研究成果

1) ジークフリート・ビング研究

ジークフリート・ビングは1880年に来日して膨大な数の日本美術品を購入し、パリで日本趣味大流行の仕掛け人となった。美術品の売買のみならず日本美術展、豪華日本美術国際雑誌を刊行するなど日本美術の欧米伝播に多大な役割を果たした。またアール・ヌヴォーの画廊を開き、アール・ヌヴォー様式を世界的大流行させたことでも知られている。このような功績にもかかわらず、ビングの死後、その店舗がナチスに略奪されたため、帳簿をはじめとする資料は現存しないと思われる。しかし、近年見つかった弟の個人アーカイブ(在ニュージーランド)、パリ、レイデン、ロンドン、ハンブルクなどの美術館に残されているビング売却作品記録や書簡の調査をもとにその活動の痕跡を浮き上がらせることが可能になった。また、日本で撮られた写真などから横浜、神戸にあったS.Bing & Coという会社についても調査の足掛かりが得られた。発表済みの研究成果はまだ調査結果の一部であり、今後引き続き英語論文として共著で成果を発表する。

2) ファン・ゴッホ作品の世界的伝播

ファン・ゴッホ作品については、その来歴、展覧会歴がかなりの精度で知られており、ファン・ゴッホ美術館などの協力も得て、作品の売買と展覧会による世界的伝播の全体像を画家の存命時から2020年代に至るまで明らかにした。明確な成果としては世界の美術館に所蔵されていく全プロセスと世界での展覧会数を具体的な数値とともに明示した。また、作品の売買価格のデータも包括的に集め、地域、時代別の価格の変動プロセスを全時代にわたって明らかにした。この種の研究は世界的にも類例のないものであり、成果は園府寺司『ファン・ゴッホ生成変容史』に日本語で発表した他、デトロイト美術館主催の国際シンポジウムでも紹介、さらにはメルボルンで2024年7月に開かれる国際美術市場研究学会世界大会での発表ほか、英文論文(共著)でも発表予定である。

3) 松方コレクション、フランス美術の世界的伝播

旧松方コレクションは1920年代を中心に収集された西洋美術の大コレクションである。このコレクションの形成、第二次大戦期のフランスによる接收、日本への返還のプロセス、ならびに個々の作品についての詳細な記録が、同コレクションを所蔵する国立西洋美術館の学芸員によってまとめられ、日仏間の美術市場研究に欠かせない基礎情報の数々が発表された。

また、フランス印象派が19世紀の経済的動向の中のどのような時期に成立したかを経済史的観点から明らかにし、その後フランス近代美術が主に1920年代のフラン安の時期に大量にイギリス、アメリカ、日本、オーストラリアなどに売却され、各地でコレクションを形成したことも明らかになってきた。フランス近代美術の成立や世界的普及は単に批評的言説の影響によるものではなく、経済的動向(フランスの好況と不況)にも強力に後押しされていたことが明らかになった。

4) アメリカ美術の伝播と価格形成

第二次大戦により大量の移民と美術作品がヨーロッパからアメリカに渡り、戦後に美術の中心がパリからニューヨークに移ると、アメリカ美術がヨーロッパをはじめ世界各地に伝播するという新しい状況が生まれてきた。抽象表現主義のジャクソン・ポロックやポップ・アートなどをフラッグシップとするMade in Americaの文化輸出品は日本やオーストラリア、さらにはイスラーム文化圏においてさえ、欧米寄り政権時代のイランに生まれたテヘラン現代美術館に所蔵されることになった。このようなアメリカ美術のグローバル・マーケットにおける伝播のメカニズムも、本研究によって解明されてきた成果である。

5) オランダ美術の国際的流通

オランダ近世美術研究は最も早い時期に市場研究が現れ、その後もすぐれた研究や方法を出し続けている研究領域である。この領域での研究を続けることは最先端の研究を取り込み続けるために不可欠でもあり、また、本研究グループにおいても美術市場研究に先鞭をつけた研究者が何名かいる。これらの研究者により、オランダ美術がその国内外においてどのような形態で市場に流れていったかがより明確にされた。具体的にはフェルメール、レンブラント、ダウラ17世紀美術の巨匠たちの作品が同時代、後代の市場でどのように扱われたかが、具体的なデータをもとに示された。

6) 日本とアジア諸国のコレクション形成、オークション記録

日本とアジア諸国の美術市場研究の基盤となる有効なデータベースはまだ形成されていない。少なくとも日本においては画商が帳簿などの記録を後世に残すという慣習が乏しく、むしろ取引記録などは墓場まで持っていくのが商人としての倫理として定着していたからか、欧米圏では収集、公開されているような画商の帳簿が極めて少ない。そのため、まとまった数の信頼できる来歴・価格記録がまだ整備されていないのである。東京文化財研究所の売立目録データベースは、本研究の研究分担者が作成に関与したもので、ある程度意義のあるものである。ただ、そのデータ量や内容は包括的研究のためには充分とは言い難く、今後さらに調査を続けていく必要がある。

日本、アジア美術全般については、本研究の国際シンポジウムなどで行なったように、個々のコレクション形成へのアプローチから情報を根気よく集めていくのが適切な方法であることが判明してきた。これには息の長い個別調査が必要であるが、そのような調査を進めると同時に、売買記録の保存が学術的に意義の大きいものであることを広く美術関係者に周知していくことも重要である。

また、欧米諸国に所蔵されている日本、アジア美術作品については、購入情報や往復書簡、領収書などが比較的良好に保存されていて、アクセスしやすいことが多く、国外における調査もかなり有効であることがわかってきた。このような知見も今後研究をさらに展開していくためには有意義である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 陳岡めぐみ	4. 巻 27
2. 論文標題 松方コレクションとパリの画商 INHA所蔵のレオンス・ベネディット資料の紹介(1)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国立西洋美術館研究紀要	6. 最初と最後の頁 25-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 囿府寺司	4. 巻 38
2. 論文標題 S. ピング関連資料 1880 年代 柴田是真、エドワード・S・モース、カール・マスン	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 フィロカリア	6. 最初と最後の頁 41-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 青野純子	4. 巻 76
2. 論文標題 競売目録から読み解くレンブラントの評価 18世紀の光と闇のはざままで	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 花美術館	6. 最初と最後の頁 22-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小林頼子	4. 巻 38
2. 論文標題 十七世紀オランダ風俗画家ヘリット・ダウと揺れ動く評価軸	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 明治学院大学言語文化研究所紀要 言語文化	6. 最初と最後の頁 73-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Junko Aono	4. 巻 なし
2. 論文標題 Louis de Moni - Feinmalerei collected by Caroline Louise of Baden	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Connoisseurship: Essays in Honour of Fred G. Meijer, edited by Charles Dumas, Rudi Ekkart and Carla van de Puttelaar	6. 最初と最後の頁 22-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 小林頼子	4. 巻 1
2. 論文標題 17世紀オランダ美術市場とフェルメール	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アート・マーケットの時代 17世紀オランダ・フランドルを中心に	6. 最初と最後の頁 32-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安永拓世	4. 巻 9
2. 論文標題 売立目録から見える真の玉堂作品	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 玉堂清韻社報	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 青野純子
2. 発表標題 色と光を描く-- 18世紀オランダの複製素描とピーテル・デ・ホーホの評価をめぐる一考察
3. 学会等名 シンポジウム「15～18世紀ネーデルラントと オランダ美術における複製 / コピー
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Tsukasa Kodera
2. 発表標題 The Activities in Japan of Siegfried Bing, global art dealer and promoter of Japonisme and Art Nouveau
3. 学会等名 The International Art Market Studies Association (TIAMSA) Conference, Art Market and Museum (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Toshiharu Omuka
2. 発表標題 The Impact of Russian Art in early 1920s Japan: Conscious Constructionism and the Mavo Movement
3. 学会等名 100 Years of German-Russian Cultural Exchange: The First Russian Art Exhibition at the Galerie van Diemen Berlin in 1922
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青野純子
2. 発表標題 価値を生み出す筆-- 18世紀オランダ絵画市場と複製素描-
3. 学会等名 三田芸術学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 青野純子
2. 発表標題 高すぎる値段：18世紀競売の舞台裏をめぐる一考察
3. 学会等名 九州大学芸術学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 陳岡めぐみ
2. 発表標題 ミュージアム・ドキュメンテーションと『松方コレクション 西洋美術全作品』編纂
3. 学会等名 国際シンポジウム カタログ・レゾネ デジタル時代のアーカイブとドキュメンテーション」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 五十殿利治
2. 発表標題 対外文化宣伝としての美術展 - パリ万国博(1937年)以後
3. 学会等名 近現代東亞美術史の新資料與新研究 台北:北投文物館(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計15件

1. 著者名 園府寺司	4. 発行年 2023年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 296
3. 書名 ファン・ゴッホ生成変容史	

1. 著者名 Hiroko Ikegami 他 共著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Bloomsbury	5. 総ページ数 354
3. 書名 Pop Art and Beyond: Gender, Race, and Class in the Global Sixties	

1. 著者名 Junko Aono 他 共著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Warburg Pers	5. 総ページ数 359
3. 書名 Frans Grijzenhout (ed.), Kunst, kennis en kapitaal: Oude meesters op de Hollandse veilingmarkt 1670-1820	

1. 著者名 T.Omuka 他 共著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Bohlau Verlag	5. 総ページ数 272
3. 書名 100 Years On: Revisiting the First Russian Art Exhibition of 1922	

1. 著者名 Hiroko Ikegami 他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Ashmolean Museum, University of Oxford	5. 総ページ数 283
3. 書名 Tokyo: Art & Photography	

1. 著者名 安永拓世・山口隆介・山下真由美・月村紀乃・中村節子・小山田智寛	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京文化財研究所	5. 総ページ数 168
3. 書名 東京文化財研究所 研究報告書 売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望 売立目録の新たな活用を目指して	

1. 著者名 陳岡めぐみ 責任編集	4. 発行年 2019年
2. 出版社 国立西洋美術館	5. 総ページ数 377
3. 書名 『松方コレクション展』図録	

1. 著者名 陳岡めぐみ・川口雅子編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 国立西洋美術館	5. 総ページ数 117
3. 書名 国際シンポジウム報告書 カタログ・レゾネ デジタル時代のアーカイヴとドキュメンテーション	

1. 著者名 Hiroko Ikegami, Dan Jacobs, Sarah Magnatta	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Museum of Outdoors Arts	5. 総ページ数 68
3. 書名 Rauschenberg: Reflections and Ruminations	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	安永 拓世 (Yasunaga Takuyo) (10753642)	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・文化財情報資料部・室長 (82620)	
研究分担者	池上 裕子 (Ikegami Hiroko) (20507058)	神戸大学・国際文化学研究所・教授 (14501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	青野 純子 (Aono Junko) (20620462)	明治学院大学・文学部・教授 (32683)	
研究分担者	河内 華子 (Kawauchi Hanako) (20709539)	大阪大学・大学院人文学研究科（人文学専攻、芸術学専攻、 日本学専攻）・助教 (14401)	
研究分担者	後小路 雅弘 (Ushiroshoji Masahiro) (50359931)	九州大学・人文科学研究院・特任研究員 (17102)	
研究分担者	出川 哲朗 (Degawa Tetsuro) (50373519)	大阪大学・総合学術博物館・招へい教授 (14401)	
研究分担者	陳岡 めぐみ (Jingaoka Megumi) (50409702)	独立行政法人国立美術館国立西洋美術館・学芸課・主任研究員 (82622)	
研究分担者	五十殿 利治 (Omuka Toshiharu) (60177300)	筑波大学・芸術系（名誉教授）・名誉教授 (12102)	
研究分担者	磯谷 有亮 (Isotani Yusuke) (70845304)	神戸大学・国際文化学研究科・講師 (14501)	
研究分担者	尾崎 彰宏 (Ozaki Akihiro) (80160844)	東北大学・文学研究科・名誉教授 (11301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉川 節子 (Yoshikawa Setsuko) (20970825)	京都先端科学大学・人文学部・客員研究員 (34303)	
研究分担者	小林 頼子 (Kobayashi Yoriko) (10337636)	目白大学・メディア学部・客員研究員 (32414)	
研究分担者	上原 真依 (Uehara Mai) (90609463)	愛媛大学・教育学部・准教授 (16301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関